

# 平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヤリイカ

学名 *Loligo bleekeri*

系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 1歳  
成熟開始年齢: 1歳  
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～4月)、九州～東北の沿岸各地  
索餌期・索餌場: 夏～秋季(8～12月)、九州～東北の太平洋側、北方の冷水域では浅く、南方の暖水域では深い傾向がある、土佐湾では水深100～250mの底層  
食性: 外套背長50mmまでは主に小型の浮遊性甲殻類、成長とともに大型のオキアミ類やアミ類、170mm前後からは魚類  
捕食者: 不明

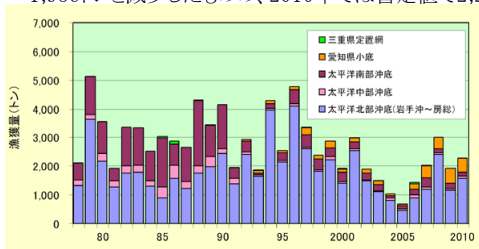


## 漁業の特徴

主に底びき網等で漁獲される。太平洋北部海域(岩手沖～房総)では1そうびきオッターロール沖合底びき網(沖底)、太平洋中部海域(伊豆沖～熊野灘)では1そうびき沖底及び愛知県外海小型底びき網(小底)、太平洋南部海域(紀州沖～薩南海域)では主に2そうびき沖底により漁獲される。また定置網でも漁獲される。

## 漁獲の動向

総漁獲量は1990年までは2千～5千トン間で増減しており、太平洋北部と中部・南部の漁獲量は同程度であった。1991年に南部の漁獲量減少に伴い、総漁獲量は1,948トンに減少した。その後の北部の漁獲量増加により、1996年に総漁獲量は4,781トンまで増加した。その後減少傾向が続いたが、2006年以降は増加傾向に転じた。2009年には1,936トンと減少したものの、2010年では暫定値で2,287トンと前年より増加した。



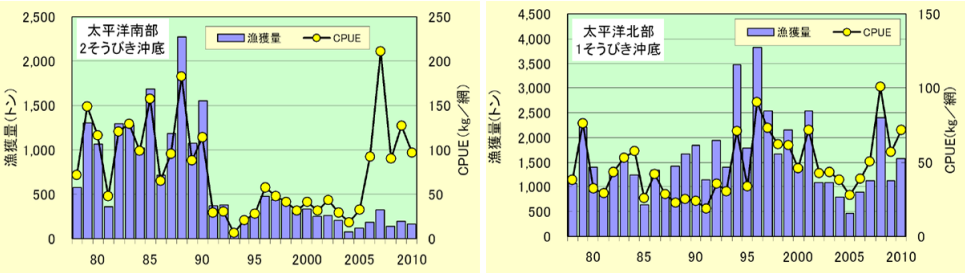
## 資源評価法

太平洋系群全体の漁獲量、太平洋北部の1そうびきオッターロール沖底と南部の2そうびき沖底によるCPUEおよび調査船による土佐湾での幼イカ採集数を検討した。ただし、海域により資源量指標値の動向が異なることや、太平洋中部の愛知県外海小底のCPUEが利用できないことから、系群全体の漁獲量から資源の水準と動向を判断した。

## 資源状態

太平洋南部の2そうびき沖底のCPUEは1991～2005年に低水準で推移したが、2006年以降は1990年以前の水準に回復しつつある。2010年のCPUEは2009年よりやや減少した。太平洋北部の1そうびきオッターロールのCPUEは2006年以降増加傾向となり、2008年には過去最高となった。2009年は前年の半分となったが、2010年には再び増加した。1978～2010年の漁獲量の最大値と最小値を三分する基準に従い、2010年の漁獲量から資源水準は中位とした。過去5年間の漁獲量の推移から、資源動向は増加とした。





管理方策

現状の資源量の維持を図るため、ABCの算定にあたっては直近3年間(2008～2010年)の漁獲量の平均値をABClimitとし、それに安全率0.8を乗じてABCtargetを算出した。

|           | 2012年漁獲量 | 管理基準            | F値 | 漁獲割合 |
|-----------|----------|-----------------|----|------|
| ABClimit  | 2,400トン  | 1.0Cave3-yr     | -  | -    |
| ABCtarget | 1,900トン  | 0.8・1.0Cave3-yr | -  | -    |

- 100トン未満を四捨五入

資源評価のまとめ

- 太平洋南部のCPUEは、2006年以降、1990年以前の水準に回復しつつある
- 太平洋北部CPUEは、2006年以降増加傾向にある
- 資源水準は中位、動向は増加傾向

管理方策のまとめ

- 現状の資源量の維持を図る
- 漁獲量の年変動が大きく、資源変動と環境条件の関係の解明が必要

執筆者: 梨田一也・阪地英男

資源評価は毎年更新されます。